

編集後記

通信総合研究所では、二十数年来、宇宙通信及び移動通信の研究に取り組んできたが、将来の移動通信においてデジタル方式が主流となるとの観点から、昭和56年より通信機器部通信方式研究室においてデジタル陸上移動通信の研究に着手した。通信方式研究室では、昭和60年の機構改革により通信技術部に所属したのを契機に、研究の重点をデジタル陸上移動通信システム全般から個別の要素技術、特に、デジタル無線伝送技術に絞り、現在に至っている。

本特集号は、研究着手から現在までに通信方式研究室で実施したデジタル陸上移動通信技術の研究のうち、既に当研究所の季報等に発表したもの及び現在論文誌等に投稿中のものを除く主な研究成果をまとめたものである。従来の特集号では、複数の研究室が関係する重要プロジェクトの成果等の報告のために企画され、多数の研究者が投稿する論文で編集するのが通例である。また、ジョイントプロジェクトの統括責任者等により、プロジェクトの現状、特集号発行の経緯、内容の概略、今後の期

待などが、緒言及び結言において述べられるのが通例である。しかし、今回は一研究室の成果のみで特集号を編集することとしたため、通常のものとは多少異なる構成となった。

また、二研究室の小人数（異動した人を含めて）で、かなりの論文件数が必要な特集号に取り組んだため、完成までに多くの困難があった。そして、一時、特集号の企画が危ぶまれる事態にも陥ったが、周囲の励ましと関係者の努力により発行の運びとなったものである。ここで、特集号の企画、発行に当たりご支援頂いた各位に深く感謝致します。また、通信方式研究室での研修中の研究成果を本特集号に投稿するに当たり、共著者として多大の貢献をして頂いた木下氏（松下通信工業）、中嶋氏（警察庁）、須永氏（三菱電機）に感謝致します。

今回の本特集号では、企画に当たり論文を分類分けするとともに研究論文以外に解説も含めることにより、多少とも読者への便宜を図った積もりであり、本特集号がデジタル移動通信技術に関心のある方々の参考になれば幸いである。

笹岡秀一（通信技術部 通信方式研究室）